令和8年11月20日

富　山　湾　漁況・海況　概　報　(NO.8－8)

富山県農林水産総合技術センター
水産研究所：TEL(076)475-0036

1.令和8年10月の漁況

水産研究所が県下市場から収集した令和8年10月の県内の総漁獲量は697トンで、前年（1,514トン）をかなり下回り、平年（過去10年平均：1,327トン）を下回った。

2.10月の主な魚種別漁況（表１参照）

シイラ：全市場合計漁獲量は177トンで平年（過去10年平均：294トン）を下回った。
市場別漁獲量は氷見131トン、新湊23トン、魚津11トン。

フクラギ：全市場合計漁獲量は139トンで平年（過去10年平均：158トン）をやや下回った。
市場別漁獲量は氷見55トン、魚津39トン、新湊24トン。

シロエビ：全市場合計漁獲量は50トンで平年（過去10年平均：55トン）をやや下回った。
市場別漁獲量はとやま市40トン、新湊10トン。

ソウダガツオ：全市場合計漁獲量は41トンで平年（過去10年平均：164トン）をかなり下回った。
市場別漁獲量は氷見28トン、新湊8トン、とやま市2トン。

ベニズワイ：全市場合計漁獲量は36トンで平年（過去10年平均：51トン）を下回った。
市場別漁獲量は魚津20トン、新湊7トン、滑川5トン。

カマス：全市場合計漁獲量は35トンで平年（過去10年平均：153トン）をかなり下回った。
市場別漁獲量は氷見20トン、新湊7トン、とやま市6トン。

アジ：全市場合計漁獲量は23トンで平年（過去10年平均：44トン）を下回った。
市場別漁獲量は氷見12トン、とやま市5トン、魚津3トン。

サバ：全市場合計漁獲量は15トンで平年（過去10年平均：89トン）をかなり下回った。
市場別漁獲量は氷見3トン、とやま市3トン、新湊2トン。

カワハギ類：全市場合計漁獲量は14トンで平年（過去10年平均：34トン）をかなり下回った。主にウスバハギが漁獲された。市場別漁獲量は氷見5トン、新湊5トン、魚津2トン。

表１　令和8年10月の主な魚種別漁獲量　（単位：トン）

魚　種	漁　法	令和8年10月				前年	前月	平年比
		上旬	中旬	下旬	月計	月計	月計	(%)
シイラ	定	42	22	113	177	208	48	60
フクラギ	定	69	12	58	139	127	45	88
シロエビ	漁	30	9	11	50	56	62	90
ソウダガツオ	定	2	14	25	41	396	2	25
ベニズワイ	漁	14	8	15	36	40	17	71
カマス	定	10	13	12	35	191	8	23
アジ	定	10	8	5	23	24	14	52
サバ	定	4	5	6	15	139	10	16
カワハギ類	定	4	4	6	14	48	8	40
小計		185	94	250	530	1,230	214	
その他		39	40	88	167	285	117	
合計		224	135	338	697	1,514	332	53

注：単位未満は四捨五入したため、月計と各旬の合計値が一致しない場合がある。
定：定置網、　漁：漁船漁業

※ 参考　かなり上(下)回る：+−51%以上　　上(下)回る：+−50%～+−21%
　　やや上(下)回る：+−20%～+−6%　　平年並み：+−5%以内

3. 海洋観測結果

令和8年11月期の海洋観測を11月5日～6日に実施した。今回観測した水深別の湾内17定点の平均水温、これらの平年差、評価及び前月差は表2のとおりであった。また、観測域の表層、深度50m層、100m層および200m層における水温水平分布は図1のとおりであった。

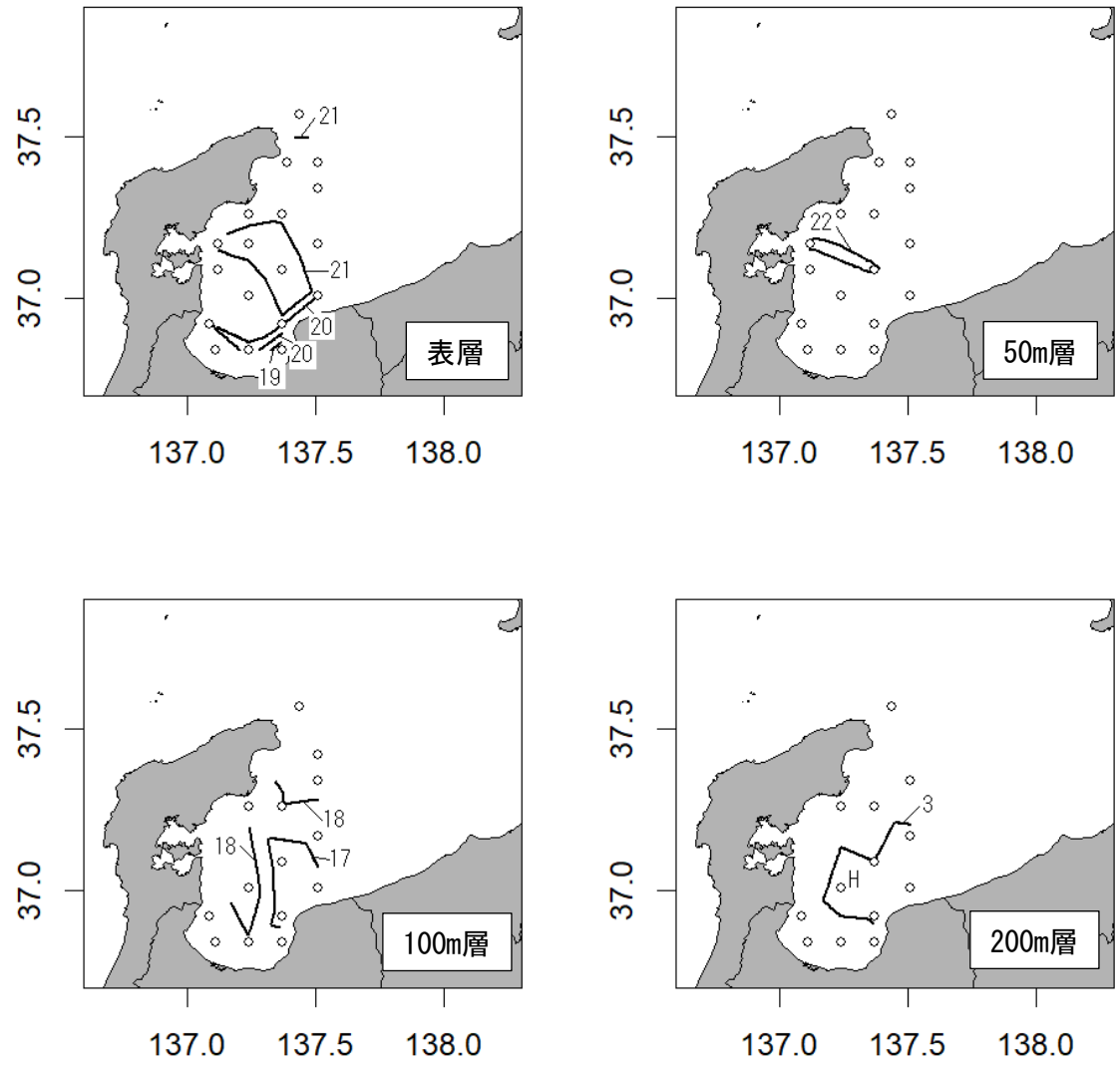
観測定点の水温の範囲は、表層で18～21℃台、50m層で21～22℃台、100m層で16～18℃台、200m層で2～3℃台であった。なお、昨年同期の湾内17定点の平均水温との差は、表層で-0.08℃、50m層で+1.41℃、100m層で+2.27℃、200m層で-2.17℃であった。

表 2 富山湾の平均水温(17 定点平均) （水温:℃）

深 度(m)	0	10	20	30	50	75	100	150	200	300
水 温 値	20.93	21.70	21.67	21.69	21.59	20.92	17.59	7.41	2.86	1.24
平 年 差	+0.86	+1.30	+1.23	+1.24	+1.27	+1.67	+0.64	-2.92	-1.91	-0.20
評 価	←→	←――――――――――――――――→					←――→	←――――→		←――→
	やや高い	かなり高い					平年並み	かなり低い		やや低い
前 月 差	-4.47	-4.15	-3.77	-2.40	+1.23	+3.85	+3.46	-0.84	-0.20	-0.05

“平年並み”…約2年に1回の出現確率　“かなり高(低)い”…約10年に1回の出現確率
“やや高(低)い”…約4年に1回の出現確率　“はなはだ高(低)い”…約20年以上に1回の出現確率

図1 水温水平分布



令和８年度ブリ漁況に係る情報

【今漁期（10 月～翌年3月）の日本海におけるブリ来遊漁海況】

近年、ブリ（2歳以上）の資源量は高水準で推移しており、今漁期の日本海中部（兵庫県～新潟県）における南下群の来遊量は前年並みと見込まれます*1。

山形県から能登半島沿岸域の 12 月水温が高い年は、富山湾への来遊割合*2 が高い傾向があります*3。同海域における今年 12 月の水温は、平年より高く推移する予測であることから*4、富山湾への来遊割合は高くなることが見込まれます。

※１ 国立研究開発法人水産研究・教育機構による情報

※２ 10～翌３月の漁期中において（富山＋石川）／（富山＋石川＋新潟）で計算される定置網漁獲量の割合

※３ 富山県水産研究による分析

※４ FRA-ROMSⅡv2 による海況予測

根拠となった情報

・ブリ資源の状況

国立研究開発法人水産研究・教育機構の資源評価によると、日本全体のブリ資源量は 2017 年頃まで増加し、その後も高い水準で推移しています。本県でブリ銘柄として漁獲される2歳以上魚についても、高水準で推移しています（図1）。

・日本海中部への来遊見込み

日本海中部ブリ長期漁況予報では、４～９月の漁獲量が多いほど、11～翌3月の漁獲量が多くなる傾向があります。2026 年４～９月の2歳以上魚の漁獲量は前年同期比 104%であったことから（図2）、今漁期の来遊量は前年並みと予測されています。

・12 月の海況予測

ブリは日本海を南下回遊する際、山形県から能登半島沿岸の水温が高いと富山湾への来遊割合が高くなる傾向があります。FRA-ROMSⅡv2 による予測では、日本海北部海域の 12 月 100m 深水温は平年より高めに推移すると見込まれています（図3，４）。 なお、図3にはブリが南下する目安とされている 14℃を赤線で示しました。

参考（10 月における富山県及び近隣県のブリ漁況）

・本年 10 月における富山県のブリ漁獲量は約 2.6 トンとなり、平年（過去 10 年平均）比の 194%でした。

・新潟県のブリ漁獲量は、大ブリ（7kg 以上のブリ）が 4.1 トン、中ブリ（4kg 以上7kg 未満のブリ）が 1.7 トンとなり、平年（過去 10 年平均）比は順に 300%、100%でした。

出典：新潟県水産海洋研究所 HP 「ブリ情報（2026 年度冬漁期）」

・石川県のブリ漁獲量は約 42 トンとなり、過去5年平均比の約 27%でした。

出典：石川県水産総合センターHP 「漁獲統計資料」

別紙

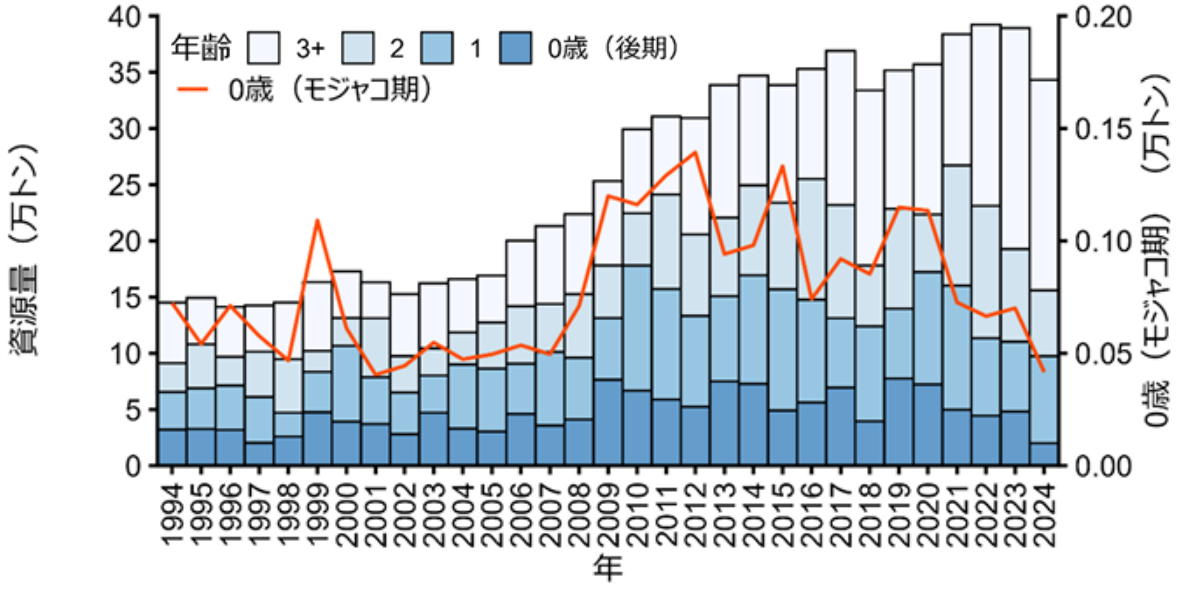


図１　ブリ年齢別資源量の推移

出典：国立研究開発法人水産研究・教育機構「令和７（2025）年度ブリの資源評価」（一部改変）

https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2026/03/details_2025_45.pdf

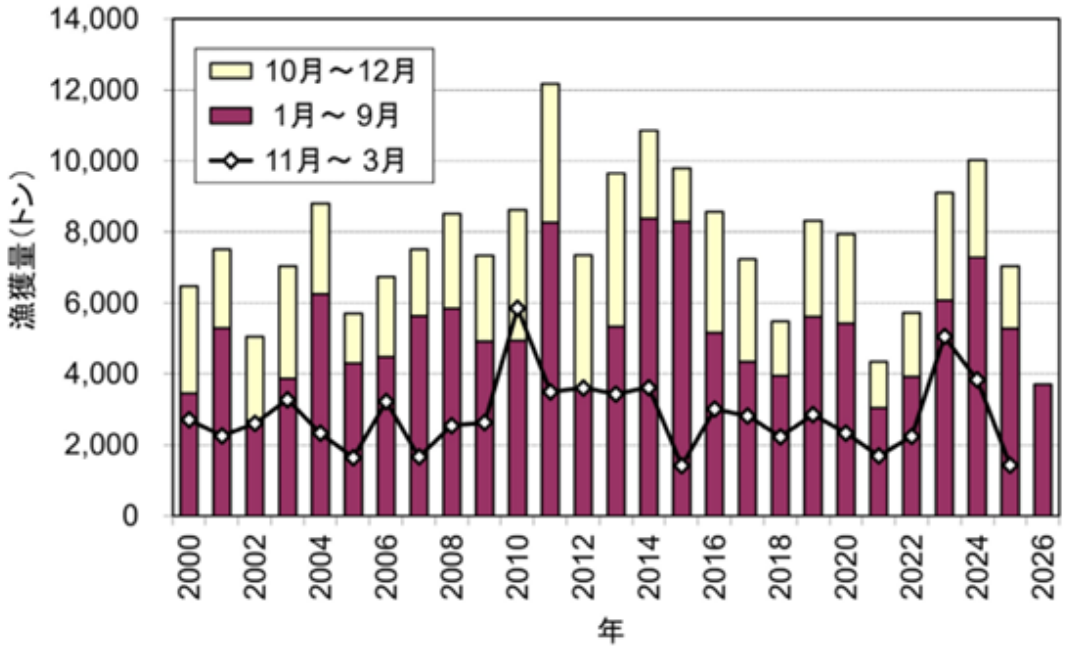
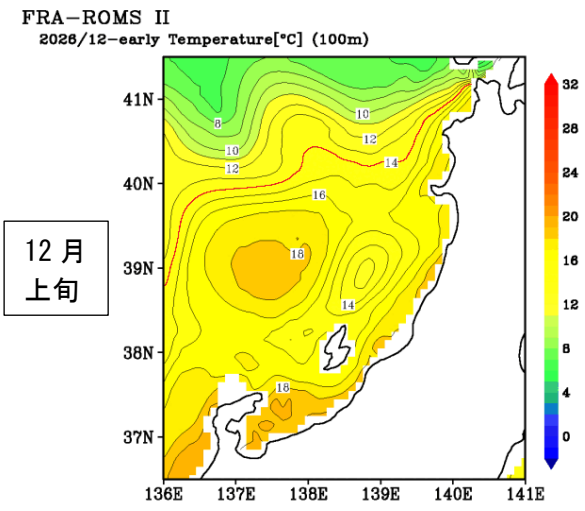


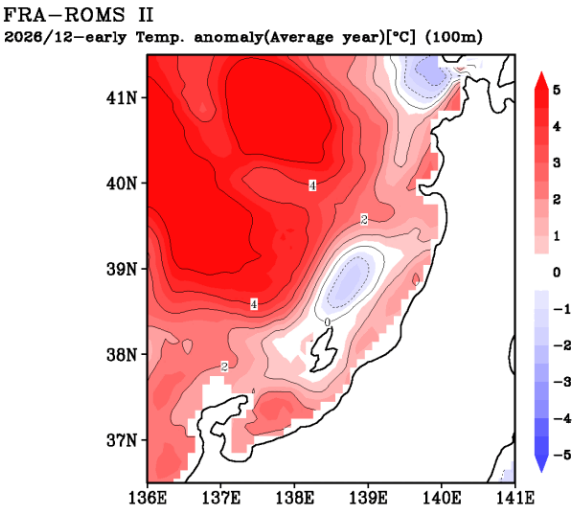
図２　新潟県～兵庫県におけるブリ定置網漁獲量の推移（2026 年は９月まで）

出典：国立研究開発法人水産研究・教育機構「2026 年度　日本海中部ブリ長期漁況予報」

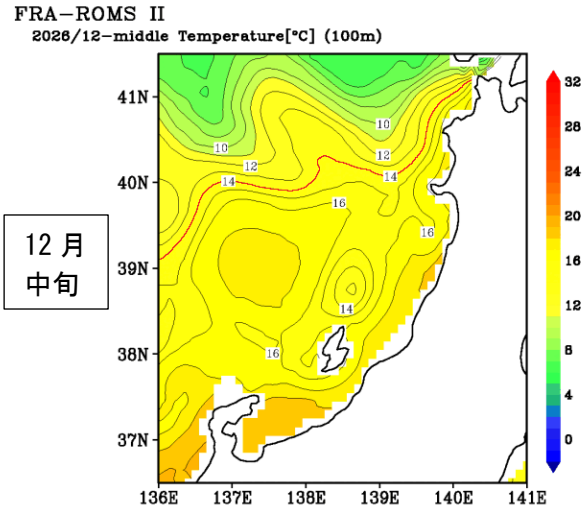
https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2026/files/20261111_buri_r.pdf

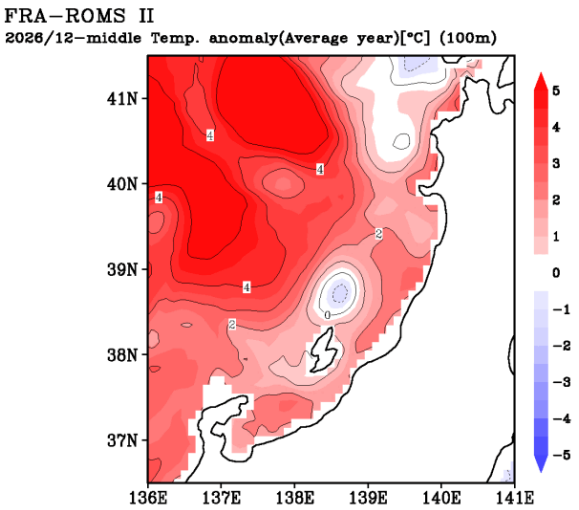
別紙



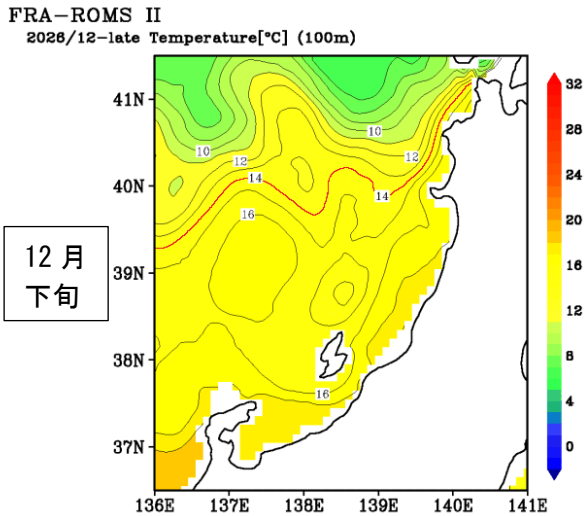


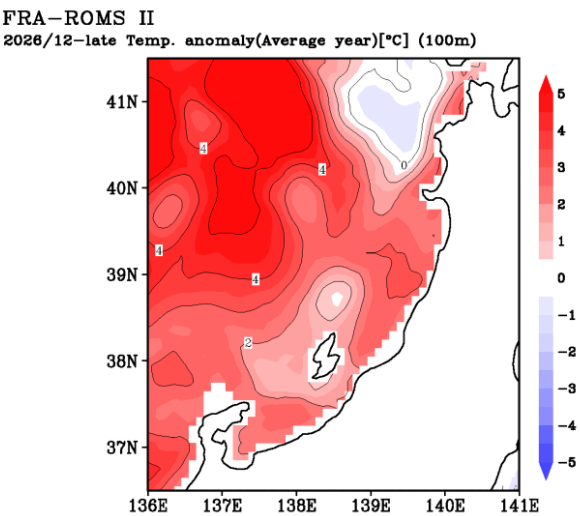
12 月
上旬





12 月
中旬





12 月
下旬

図３　12 月の 100m 深水温の予測値（2026 年 11 月 18 日時点）

出典：改良版我が国周辺の海況予測システム FRA-ROMS Ⅱ v2

https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/public/anom/wtemp/o/0100/2026/12

図４　12 月の 100m 深水温の平年偏差予測値（2026 年 11 月 18 日時点）

出典：改良版我が国周辺の海況予測システム FRA-ROMS Ⅱ v2

https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/public/anom/wtemp/o/0100/2026/12

令和８年秋期のフクラギ（ブリ当才魚）漁況に係る情報（第２報）

○概　況

今年のフクラギ漁況は、近隣府県および富山県ともに7～8月までの漁獲が低調に推移しておりましたが、9～10 月も同様に低調で推移しているため、秋期漁況（9～12 月）は平年を下回る水準で推移するものと見込まれます。

○根拠となる情報

1．近隣府県の漁況（9、10 月）

福井県、新潟県では平年をかなり下回り、京都府、石川県でも平年を下回る漁況となっています。

2．本県における 2026 年級群（ブリ当才魚）の現状

9～10 月の合計では漁獲量が 243 トンで、平年（過去 10 年平均）の 55%となっています。現時点では、秋期漁況（9～12 月）は平年（過去 10 年平均:788 トン）を下回る水準で推移するものと見込まれます。

表　フクラギ秋期漁期（9～12 月）における漁獲量の推移と比較

	9月	10 月	11 月	12 月
漁獲量	100 トン	143 トン	－	－
前年漁獲量	793 トン	180 トン	130 トン	497 トン
前年同期比	13%	79%	－	－
平年同期比	38%	78%	－	－

3．今後の予定

次回は、11 月までの漁獲状況を確認し、漁況について情報提供します。

